

令和 7 年度 三好市立学校評価報告書

学校名(馬路小学校)

校長名(加藤 幸紀)

作成日 令和8年3月3日

1 総括評価

| 評価分野 | 自己評価 (平均値) | 自己評価結果の概要 | 学校関係者評価の概要 | 次年度の改善策 |
|-----------------------------------|---------------|---|--|--|
| ①学校経営及び学校運営に関する評価 | 3.5 | <ul style="list-style-type: none"> ○小規模校の特性を生かしながら、全教職員での「チーム学校」としての協働体制を構築し、家庭や地域に信頼される学校づくりができた。 ○校内研修やOJTにより、倫理観の確立や資質・能力の向上を図ることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ○教職員が学校経営方針を意識し、一人一人の子どもの実態に即した教育活動を行っているのが分かる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、学校教育目標や学校経営方針を常に意識できるように、職員会や校内研修において継続的に説明や共通理解を図っていく。 |
| ②教育目標及び教育計画に関する評価 | 3.0 | <ul style="list-style-type: none"> ○ナンバーワン・ステップアップスクールの方策と目標を意識しながら、全教職員で取り組めた。 ○知・徳・体を育成する教育活動が、バランスよく実施できた。 | <ul style="list-style-type: none"> ○学校行事や教育活動が、ほぼ計画通り実施できていた。水泳指導時間の確保等の体育的活動も充実していたと思う。 | <ul style="list-style-type: none"> ○各種教育活動や行事のPDCAサイクルを大切に次年度への改善を図る。 |
| ③主要な教育活動に関する評価 | 3.6 | <ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器(電子黒板・タブレット等)を有効に活用して、分かりやすい授業づくりに努められた。 ○子どもの「主体的・対話的で深い学び」の実装に向け、全教職員で取り組むことができた。 ○道徳・人権教育を充実させ、いじめや差別のない仲間づくりに取り組めた。 ○他校との交流学習が十分ではなかったが、地域協力による体験活動を充実させることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ○児童数が少人数のデメリットもあると思うが、児童は協力しながら一生懸命取り組み、日々着実に成長していると思う。 ○小規模校の特性を生かし、学校と地域が一体となって活動していると感じる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○本年度の成果と課題を明確にして、次年度に十分生かしていく。 ○少人数学級や複式学級の授業や教育活動の進め方を研究し、より質の高い教育活動を推進する。 |
| ④保護者及び地域との連携等に関する評価 | 3.0 | <ul style="list-style-type: none"> ○HPや学年通信、「校報うまじ」「うまじっ子通信」で、学校の様子を積極的に伝え、保護者や地域に学校教育への理解が得られるよう努めた。 ○体験活動は地域の協力を得て、活動を充実させることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ○HPや学年通信、「校報うまじ」「うまじっ子通信」を通して、学校や子どもの様子がとてもよく分かった。 ○地域と連携した体験学習が、今年も積極的にできていた。 | <ul style="list-style-type: none"> ○家庭や地域への情報発信について、よりよい内容や方法を検討しながら継続する。 ○学校運営協議会をさらに活用し、共に教育目標の達成を図る。 ○他校と相談しながら、交流学習を継続していく。 |
| ⑤その他、上記以外に関する評価 (安全管理・ICT機器利用) | 3.3 | <ul style="list-style-type: none"> ○安全点検を定期的実施し、施設・設備の安全管理に努めることができた。 ○ICT機器や電子黒板を有効に活用するための日常的OJTの他に、AIの研修もできた。 | <ul style="list-style-type: none"> ○運動場等の整備が行き届き、1年を通してみる環境が改善していることが見てとれた。 ○参観授業で、ICT機器を使いこなしている先生や子どもの姿が印象的だった。また、流感等で休む子どもには、タブレット端末で通信しながら学習しているということに驚いた。 | <ul style="list-style-type: none"> ○危機管理を徹底し、子どもの命を守ることを最優先にした学校運営に取り組む。 ○アナログとデジタルの教育効果を考えながら、より効果的な教育活動を推進する。 |

(1) 4段階評価とする。

評価基準 4=達成度が 80~100 %
3=達成度が 50~ 80 %
2=達成度が 30~ 50 %
1=達成度が 30% 未満

(2) 総括評価表の「評価(平均値)」については、「2 分野別評価」の(1)~(5)の評価をそれぞれ平均(小数第1位)したものとす。

(3) 分野別評価の「評価項目」の「その他」については、各学校において必要事項を記入のうえ評価する。

(4) 総括評価の「評価分野-その他」の項目の()には、分野別評価の「(5) その他に関する評価」の中から、特に重要視する事から記入する。

(5) 総括評価及び分野別評価の「学校関係者評価の概要」欄は、学校関係者評価委員会(学校運営協議会も可)において評価された結果をまとめたものを記入する。

(6) 「次年度の改善策」の欄は学校評価委員会及び学校関係者評価委員会において協議された改善策をまとめたものを記入する。